

●編集顧問／牧野永城、菅原克彦、阿部令彦、出月康夫、武藤輝一、田島知郎、萩原 優、北島政樹、炭山嘉伸、跡見 裕

●編集委員／畠山勝義、桑野博行、宮崎 勝、島津元秀、渡邊聡明、瀬戸泰之

●編集同人／佐野圭司、近藤芳夫、阪口周吉、鈴木章夫、秋山 洋、塩谷信幸、諏訪邦夫、岡崎春雄、松元輝夫、折田薫三、細田泰之

今回の特集では「臓器別・消化器癌終末期の特徴とターミナルケア」というタイトルで、それぞれの専門施設からその現状を述べてもらった。臓器によってその消化器癌の終末期像に特徴があり、異なっていることがよく理解できる。癌末期の全身兆候を呈する以前に、このような臓器特有の症状を呈するという事は、その特殊な病態に対して制癌療法ではない病態緩和の有効な治療がなされれば消化器癌終末期の患者さんの quality of life (QOL) はさらによくなることを意味している。終末期消化器癌の治療に多くの消化器外科系の臨床医が様々な工夫を凝らして、なかでも各著者らの、患者さんの QOL を少しでも改善しようという暖かな気持ちが大変よく表れている内容である。

現在、QOL の定量的客観的評価としてしばしば用いられてきている SF-36 や、さらに Euro Qol や EQ-5D などを用いての消化器癌終末期患者さんの管理の評価を行っていく解析が今後必要であろう。進行した消化器癌に対して有効な抗癌剤および分子標的薬の登場によってボーダーライン症例が切除可能に転換したり、切除後もこれらの補助療法効果によって患者さんの予後は確実に延長してきている。これら multi-modality の治療方法による患者さんの生存期間への影響を、費用対効果を含めて分析することが可能な、定量化した QOL 指標を用いて解析することが今後ますます要求されてくるであろう。

このような客観的・定量的な評価方法が確立されてくれば、外科手術方法の意義もまた QOL の観点からあらためて検証されてくるようになるであろう。良性疾患に対しての外科治療は当然のことであるが、特に予後不良な難治癌を扱う領域の外科切除療法の意義についても重要な評価方法になっていく。患者さんにとっての最善の治療方法を選択させるためには、その判断に必要な情報をいかにわかりやすく客観的に提示していけるかは大変重要なポイントである。高度な技術に支えられる先進的な外科治療も、よいチームの支えなくしてはその臨床的価値を十分に発揮して患者さんに役立ち得ないであろう。

(宮崎 勝)

臨床外科 (第 65 巻 第 9 号)

発行 株式会社 医学書院
代表者 金原 優

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23
☎ 社内案内 (03) 3817-5600
販売部直通 (03) 3817-5659・5660
振替口座 00170-9-96693 番

2010 年 9 月 20 日発行 (毎月 1 回 20 日発行)

定価 2,730 円 (本体 2,600 円 + 税 5%)

2010 年年々ぎめ予約購読料 40,160 円
電子ジャーナル閲覧オプション付 52,200 円
増刊号を含む 13 冊、税込、送料小社負担

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5708
ファクシミリ (03) 3815-7802
E-mail: ringe@igaku-shoin.co.jp

担当 田村・川村・安部
印刷所 三報社印刷(株) 電話 (03) 3637-0005
広告申込所 日本医学広告社 電話 (03) 5226-2791

- ・ Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 1-28-23 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 2010, Printed in Japan
- ・ 本誌に掲載された著作物の複写・複製・転載・翻訳・データベースへの取り込みおよび送信(送信可能化を含む)に関する許諾権は医学書院が保有しています。
- ・ **JCOPY** (株)出版者著作権管理機構 委託出版物)
本書の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。複写される場合は、そのつど事前に、(株)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください。
- ・ 医学書院ホームページ(インターネット)は <http://www.igaku-shoin.co.jp> です。
- ・ 「臨床外科」ホームページは <http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/ringe/> です。